

報道機関各位

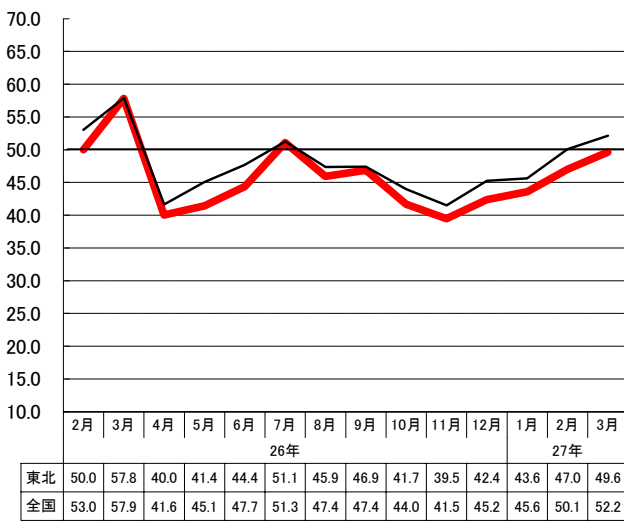
公益財団法人東北活性化研究センター
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年3月東北分
 (新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター(会長:高橋宏明・東北電力(株)取締役会長)は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年3月東北分(新潟を含む東北7県)」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断(3か月前との比較、方向性)

現状判断DI「49.6」(+2.6)は、4か月連続で前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を8か月連続で下回った。

現状判断DIの推移



・家計動向…一般レストラン、旅行代理店、コンビニ等のDIに改善がみられた。一方、百貨店では悪化の幅が大きかった。DIは「49.1」(+3.1)と4か月連続で前月を上回ったものの、基準値50を12か月連続で下回った。

・企業動向…製造業のDIは、やや低下したが、非製造業では、ほとんどの業種が前月から横ばい、もしくは改善している。また、農林水産業も改善がみられる。DIは「50.6」(+0.6)と2か月連続で前月を上回り、2か月連続で基準値50以上となった。

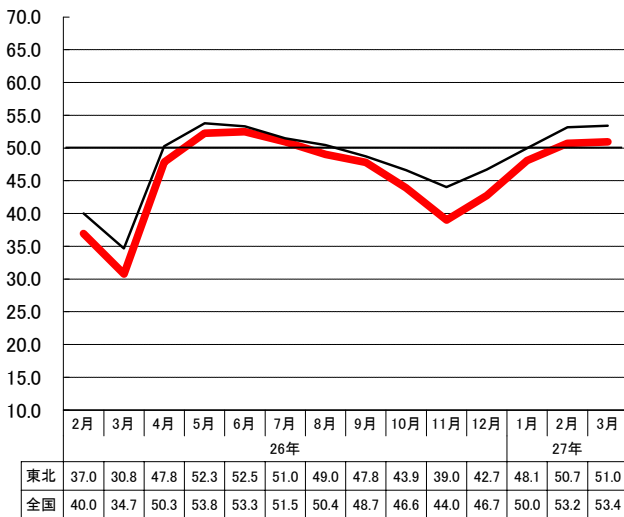
・雇用動向…DIは「51.1」(+3.4)と2か月ぶりに前月を上回り、基準値50を7か月ぶりに上回った。

— 東北 — 全国

2. 先行き判断(2~3か月先の見通し、方向性)

先行き判断DI「51.0」(+0.3)は、4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

・家計動向…スーパー、衣料品専門店、家電量販店等、小売関連にDIの改善した業種が多い。一方、サービス関連と飲食関連ではDIが低下している業種が多い。DIは「51.2」(+0.2)と4か月連続で前月を上回り、基準値50を2か月連続で上回った。

・企業動向…非製造業のすべての業種のDIが前月から横ばい、もしくは改善しているが、製造業の半数の業種は悪化している。DIは「49.4」(▲0.6)と2か月連続で前月を下回り、基準値50を3か月ぶりに下回った。

・雇用動向…DIは「52.3」(+2.3)と、4か月連続で前月を上回り、2か月連続で基準値50以上となった。

<参 考>

■D Iの推移※

(1) 現状判断(方向性) D I

	26年												27年		
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東北現状	50.0	57.8	40.0	41.4	44.4	51.1	45.9	46.9	41.7	39.5	42.4	43.6	47.0	49.6	
家計動向関連	45.9	55.4	35.9	37.8	43.5	49.8	44.8	46.2	40.2	38.6	41.3	42.5	46.0	49.1	
企業動向関連	59.5	65.5	46.4	44.0	42.9	52.4	47.0	50.0	44.0	40.5	44.6	44.6	50.0	50.6	
雇用関連(参考)	59.1	59.1	54.5	60.2	53.4	56.8	51.1	45.5	46.6	43.2	45.5	48.9	47.7	51.1	

(2) 先行き判断D I

	26年												27年		
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東北先行き	37.0	30.8	47.8	52.3	52.5	51.0	49.0	47.8	43.9	39.0	42.7	48.1	50.7	51.0	
家計動向関連	34.8	29.3	48.1	51.7	52.4	50.3	49.7	47.9	43.5	38.1	41.8	47.3	51.0	51.2	
企業動向関連	43.5	31.5	44.0	52.4	53.0	52.4	46.4	51.2	45.2	40.5	44.6	51.8	50.0	49.4	
雇用関連(参考)	38.6	38.6	53.4	55.7	52.3	52.3	50.0	40.9	44.3	42.0	45.5	46.6	50.0	52.3	

※D I (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成 27 年 3 月 25 日～31 日

回答者数 208/210 名、回答率 99.0%(全国 1,856/2,050 名、90.5%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-225-1426 FAX : 022-225-0082

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（コンビニ）…原油価格が安定しており、外に出かけるファミリーの客が増えてきている。また、消費税増税から1年が経過し、影響が少し薄れてきている感がある。

（住関連専門店）…消費者の買い控えが少しずつ緩んできている。

（一般レストラン）…送別会などが多く、販売量やコースの単価も若干上昇しているので、比較的良い状態である。

（観光型ホテル）…今月は、例年ある会社の送別会はもちろんであるが、一般の小グループの送別会や、家族、特に子供連れの客が目につく。また、料金の面においても、以前のように安かろう悪かろうから、少しレベルアップしたように見受けられる。

（旅行代理店）…前年は爆弾低気圧の関係で売上が落ち込んでいたが、今年は全般的に天気良く、個人旅行が持ち直している。

（住宅販売会社）…同地区内の店舗移築に伴う不動産手配の依頼が数件発生しており、確実に確保出来ている。春以降の一般建築物件として受注の可能性が高い。

（農林水産業）…少人数ではあるが、震災前の収入に戻った農家が出てきている。

（建設業）…工事出件には一服感があるものの、ベースアップや株高などによる期待感がある。

（通信業）…ほぼ計画どおりに推移しており、年度目標は達成できそうである。

（人材派遣会社）…大卒の新卒採用のスケジュールが今年から変更になり、3月に企業の説明会を実施したが、目標とした動員数に達していない企業が全体の8割であり、学生は非常に売手市場となっている。

○「変わらない」

（商店街）…商店街近くの施設が郊外へ移転し、来客数が減少している。

（医薬品販売店）…今月は初旬から中旬にかけてかなり悪く、下旬から良い日が続いたことでマイナス分を埋め戻している。結果として、客単価、来客数共に平均並みで終わっている。

（スーパー）…来客数は増加しているものの販売点数は伸びていない。前年の消費税増税前の状況を考慮しても、依然として客の財布のひもが固い状況が続いている。

（衣料品専門店）…入学、就職準備として取り揃える時期であるが、春物商材の動きが悪い。

（家電量販店）…春需要である家電製品の引越し需要が、前年と比べてやや落ち込んでいる。年末年始に比べると、テレビなどは持ち直してきている様子ではあるものの、全体としては良くなっているとまではいえない。

（乗用車販売店）…軽自動車税増税前の駆け込み需要の気配がない。

（都市型ホテル）…法人客、個人客共に、来客数、売上が前年並みに戻っている。

（観光名所）…3月に入ってからの降雪が多く来客数が伸びなかったが、春休み期間に入り、ようやく来客数が若干上向いてきている。

（食料品製造業）…東北地区における販売量の落ち込みが大きく、前年割れが続いている。復調の兆しがみえない。

（輸送業）…荷主の生産量が大きく変わらないため、物量そのものに大きな変化がない状態が続いている。

（職業安定所）…新規求人数の前年比は2か月連続して減少している。しかし、求職者数は事業主都合離職者の減少により引き続き減少しており、特に状況は変わらない。

○「やや悪くなっている」

(百貨店) …前年の消費税増税前の駆け込み需要の影響を除いたとしても、春物衣料品の動きが重衣料中心に非常に厳しく、それに合わせた雑貨の動きも悪くなっている。また、年々、この季節の返礼ギフトの動きも少なくなってきた。

(高級レストラン) …売上の良い店舗もあるが、全体的にみると悪い。

(美容室) …今年に入って少しは持ち直した感があったが、ここきて若干支出を抑えている様子であり、今月は単価が下降傾向にある。

(繊維工業) …店頭の出行きがあまり良くない。

(コピーサービス業) …従来であれば大きく売上を伸ばす年度末商戦において、売上に大きな変化がない。

(新聞社[求人広告]) …求人数の動きは下降傾向にある。さらに、前年は消費税増税前の駆け込み需要があったため、今年はその反動で大きく落ち込んでいる。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(百貨店) …前年の消費税増税以降、衣料品の長期不振から脱け出せずにいたが、今年の春物からは回復傾向がみられている。

(スーパー) …前年の消費税増税前の駆け込み需要による反動減が薄れてきており、消費者の購買力が強くなってきているのではないかとみている。

(衣料品専門店) …前年は消費税増税前の駆け込み需要の反動で苦戦した時期であり、4～6月は前年比の数字が上回ることは当たり前である。ただし、現状の春物の立ち上がりの早さから夏物需要の立ち上がりも例年と比べて早まるとみており、やや良くなるのではないかとみている。

(家電量販店) …企業のベースアップに期待している。

(通信業) …ベースアップの効果に期待している。

(司法書士) …消費税増税の影響を脱して、住宅着工件数が例年並みにまで回復している。

(飲食料品卸売業) …歓送迎会、花見の時期を迎えて、天候も穏やかなことから今年は例年以上に花見の実施を予定しているとの声が聞こえてくる。実際にラベルデザインや味わいなど春向け飲料の告知、入荷が盛んであり、良好な出荷を期待している。

(人材派遣会社) …マイナンバー制度、電力システム改革による、システム関連需要に関係した採用ニーズが増えるかとみている。

○「変わらない」

(コンビニ) …普段であれば夏に向けて徐々に売上が上がっていくものであるが、今年はその時期に、競合店が県内に新店を出す予定である。近隣に新店があるかどうかで大幅に経営も変わってくる。

(旅行代理店) …海外情勢を考えて国内旅行へとシフトされているが、国内旅行は客単価が低下するため、全体が復調するまでには相当の時間がかかるとみている。

(食料品製造業) …微増ではあるものの、販売計画の達成が続いている。しかし、材料単価の上昇が始まっており、また、将来の値上げが視野に入っている。そのため、結果としては変わらないのではないかとみている。

(建設業) …4月からの建築資材の値上げにより、新規受注は一時的に落ち込むとみている。ただし、受注残があるので、今後についてはあまり変わらないとみている。

(職業安定所) …建設業、製造業などから求人の相談がある一方、介護事業者からは介護保険法改正に伴う収入の減少などを懸念する声を聞いている。また、求職者からは、事業主から給料減額の話がされているという相談も出てきている。

○「やや悪くなる」

(乗用車販売店) …軽自動車税増税、エコカー減税厳格化の影響により、4月以降は新車販売が落ち込むとみている。

(白衣・ユニフォーム専門店) …夏場の商品は注文が分散しており、受注量が毎年減少しているため、売上も毎年難しくなっている。各社でいろんな商材を出してきているなか、販売店独自のカラーを出すことの難しさを実感している。

(高級レストラン) …4月からの予約状況も今一つである。また、周囲の客の状況をみても明るい話題がない。

(農林水産業) …稲作廃業農家からの小作依頼により、今年度から耕作面積が更に増える。このままの米価では一層経営が圧迫されてしまう。

(出版・印刷・同関連産業) …受注残の動きは、今年が一番悪い状態である。前年比20%減、一昨年比5%減であり、景気は悪い方向に向かっているのではないか。

(新聞社[求人広告]) …消費税増税前の駆け込み需要の反動から一年が経過して、その傾向は落ち着いてきている。ただし、景気浮揚はベースアップが活気付く首都圏に集中しており、地方への恩恵はほとんどない。地方創生の政策が動き出したが、これが機能するかどうかは鍵とみている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上